

下の写真は生まれたてのカタツムリと学校のグラウンドに面した校舎側の土手に生えていたキノコです。カタツムリは自宅近くで



の朝の散歩の際に大量に生まれているのを発見し、写真に収めました。キノコは、6月初旬に教育実習生の授業を見に行った際にもあまりにも毒々しく立派に生えており、確認したところ毒を持ったキノコの一つであるとのことでした。白いキノコの胞子がどこからか飛んできたのでしょうか、学校に来た小さな子ども

もたちが面白がって触ったり口に入れたりしてもいけないと思い、校務員さんに採ってもらいました。このキノコは、1日で一気に大きくなるらしく自然の力を感じました。また、カタツムリは殻ごと大きくなるという不思議な生物ですが、よく見かけます。ナメクジは殻が進化してなくなった生物だそうです。小さいうちは透明な殻でかわいく感じます。先週末の大雨等、梅雨の最後には豪雨での災害が起こりがちで、線状降水帯が発生した場合の被害は、昨今のニュースでも伝えられていますが、予想以上に大きな被害となっており、毎年のように続いています。以前、土砂災害で被害に遭った地域にボランティアに行った際、側溝が詰まってあふれ出た水で家が浸水したのを見て、水の流れの恐ろしさを知りましたし、普段から側溝に物が詰らないよう注意を払っておかなければならないと感じました。身近なところで小さな変化に気付くことは、災害の被害を大きくしないことにもつながると思います。日頃の観察力を身につけてください。

7月1日には滋賀県で行われた近畿地区高等学校PTA連合会大会滋賀大会にPTA会長、理事の方と一緒に行って



来ました。2025年国民スポーツ大会(国体)が滋賀県で開催されるようで、そのマスコットも出迎えてくれました。開会式に先立っては、滋賀県立守山中学校・高等学校吹奏楽部が素晴らしい演奏を披露、開会式では実行委員長が温かみのある言葉で挨拶をされ、私自身4年ぶりに参加したのですが、とても良い雰囲気にも包まれた大会に感じました。講演ではジャーナリストの高松平蔵氏が「これからの時代のPTAのあり方を考える」というテーマで話をされました。ドイツ在住の高松氏がドイツとの生活、文化等との比較から今後の学校、保護者、PTAの進め方についての考え方をテーマに盛り込まれていました。日本とドイツの文化の違いもあり、休養の取り方や学校教育の考え方も根本的に違うので比較は難しいですが、これからの日本は生活の質を上げていくことに重きを置き、仕事の仕方も変化を見せてきています。若い世代の転職ありきの考え方や出世よりはかか生活を楽しむかという視点など将来設計や生活様式、人生観にも変化をもたらせていますので、そういった中で、学校教育はどうあるべきか、保護者はどのように学校と関係を作っていくのかはコミュニケーションをしっかりと取りながら考えて行かねばならない問題だと思います。結論はなかなか出ませんが、日頃PTAの皆様にはいろいろな形で支援をいただいていますので、少子高齢化が進む中で、どのように今までの状態を維持できるか、またどの程度維持していかなければならないのかも含めて考えなくてはならないという難しい話でした。舞子高校にとって良い方向を探るためにも、PTAの皆様とも話をして進めていかなければならないと思っています。

6月30日に3年生、7月4日に2年生の保護者会がありました。お忙しい中、ありがとうございます。3年生では進路の進め方の話が、2年生では進学費用、修学旅行と科目選択の話が中心でした。私からも日頃のご協力のお礼を申し上げ、校長面談での生徒の様子などをお伝えしました。学校生活の様子を聞き、疑問に思うことを聞き出すとともに、進路実現の向かい方や大切さなど生徒自身に学習へのモチベーションを上げてもらうために何が重要かという話をしています。2年1組までが終了し、2学期以降2年2組からスタートしていきます。期末考査が終われば夏季休業に向かいます。それぞれの学年で重要な夏季休業です。しっかりと計画を立て実りある長期休業にするためにやるべきことをしっかりとイメージして取り組んでいきましょう。ボランティア等への参加も呼びかけられていますが、一人一人が自覚ある行動を取ってもらえるよう期待しています。